

～集落ぐるみのワイヤーメッシュ柵設置計画～

(取組主体名) 下倉大原地区獣害対策協議会

(所在地) 宮城県仙台市青葉区大倉

■ 組織のプロフィール

- ・下倉大原地区は仙台市青葉区宮城総合支所管内に所在し、地区内では水稻を中心に農業が盛んに営まれている。
- ・イノシシの出没が非常に多い地域であり、平成22年度に集落にイノシシによる被害を防ぐための防護柵を設置している。
- ・捕獲についてもわなの免許を有する地域農業者を中心に取り組んでいる。



1. 取組のきっかけ

- 当集落は、平成22年度にイノシシ対策としてワイヤーメッシュ柵を整備しているが、柵設置から概ね13年程度経過し、設置時からは、集落内の営農状況やイノシシの出没動態も変化が見られ、現在も農作物の被害が発生している状況である。
- 平成22年度に設置したワイヤーメッシュ柵等、今までの対策の状況と現状の被害状況を振り返りながら、今後、柵の設置等を含めた取り組みについて地域単位で再検討を行う考えから、専門家の助言を得ながら話し合いを進めることとした。

2. 取組の内容と特徴

- モデル事業で取り組むべき方向性を確認するため、地区住民に対して専門家から現在の被害状況、獣種、捕獲状況、現状のワイヤーメッシュ柵の管理状況のヒアリングが行われた。山の中に設置した侵入防止柵については管理が不十分で、効果も薄いなどの声があったため、今後、設置する場合は、効果的で管理しやすい侵入防止柵となるよう設置方法を検討することになった。(第1回勉強会)
- 被害対策を実施するため、鳥獣害対策専門家からイノシシの生態や対策を学ぶ勉強会を開催した。「イノシシの特性と被害対策」と題した講演後、地域住民で図面を見ながら現状の課題と効果的な侵入防止柵の設置ルートについて意見交換を行った。(第2回勉強会)
- 第2回勉強会で出された意見と図面を確認した。前回は集落全体を守ることに重点を置いて設置したが、次回は農地を守ることに重点を置く方針で検討することになり、設置ルートについて今後も引き続き検討していくことになった。(第3回勉強会)



第2回勉強会

3. 課題と今後の展望

- 地域住民も高齢化しており、ワイヤーメッシュ柵の設置作業が困難になってきている。集落内の若い人達の意見を反映しながら、設置ルートを決定し、若い人の協力をえて設置や管理が行える体制づくりが必要となっている。

～ 高齢化が進む前に集落ぐるみで対策を ～

(取組主体名) 南沢環境美土里の郷

(所在地) 宮城県栗原市一迫



■ 組織のプロフィール

南沢地区は栗原市一迫の南部にあり、東側に東北自動車道が通り沢沿いに農地が続く細長い地区である。この南沢環境美土里の郷は集落の多面的機能を維持を目的として地域の農業法人を中心に結成された組織である。

1. 取組のきっかけ

- 近年、南西部で境を接する隣の市で獣害防止のため侵入防止柵を整備したことから、行き場を失ったイノシシが南沢地区に流れ込み、頭数の増加と併せ農作物への被害が急増している。
- このまま地域の高齢化が進めば農作業を委託する農家が増加し、地域での効率的な被害防止策を図ることや、合意の形成が困難になることが予想されることから、集落全域を包括する南沢環境美土里の郷が中心となって話し合いを進めることとなった。

2. 取組の内容と特徴

- 南沢環境美土里の郷会長に、行政区長、町会長、環境保全型農業直接支払の団体の代表者と、地区で2人のみである狩猟免許所有者を加えた集落の中心となるメンバーを対象としてイノシシの生理・生態や、他の地域でのイノシシ被害対策の状況について勉強会を開催し、集落点検を実施して自分たちの集落にあった物理柵の整備方法を探った。
- その結果、集落を二つに分け、2か年にわたる年次計画を立てたうえで栗原市に対しワイヤーメッシュ柵の要望を行う計画を立て、集落の全世帯に対し提案を行った。



第1回勉強会



集落点検



集落への提案

3. 課題と今後の展望

- 集落ぐるみで獣害の防止対策を進めていくことについては、当日の説明会参加者全員から賛同が得られた。
- 今後は、地権者の同意を得ながら計画の詳細を詰めていくこととなった。